P-3-40

実測体重増加を考慮した20歳からの体重増加問診の正誤と心血管疾患リスク因子との関連

長濱さつ絵12、堀愛3、坂本宣明4、朝倉敬子２、西脇祐司2
1全日本労働福祉協会、2東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野、3筑波大学医学医療系国際社会医学研究室、4ヘルスデザイン株式会社

【目的】

30歳時の問診「20歳の時の体重から10kg以上増加している」の正誤と、実際の体重増加量の組み合わせが、30歳の時の心血管疾患リスク因子の有所見割合と関連しているかどうかを検討

【方法】

対象者：2018年健診受診時に30歳の12,815人のうち、 20歳時の体重の測定値がある2,508人（男1,930人、女578人）

10年間の実際の体重増加量と30歳時の問診の正誤の組み合わせで対象者を4群に分類

		問診「20歳の時の体重から10Kg以上増加している」の正誤	
		正回答	誤回答
10年間の体重増加量	10kg未満	A 群	B群
	10kg以上	D群	C群

各群の心血管疾患リスク因子の平均値と有所見割合（特定保健指導の基準に基づく）を算出

【結果】心血管疾患リスク因子の有所見割合はほとんどの項目でABCD群の順で高値となった

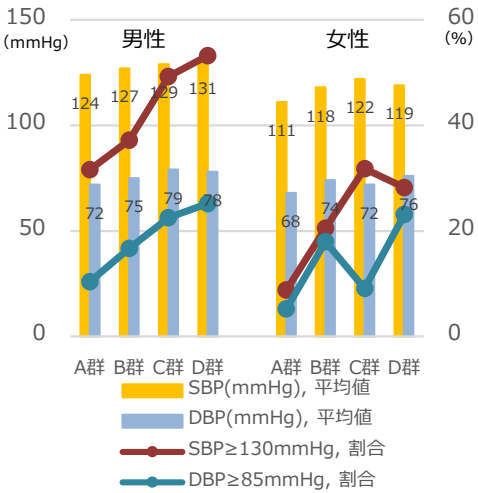

図1. 各群の血圧の平均値と有所見割合

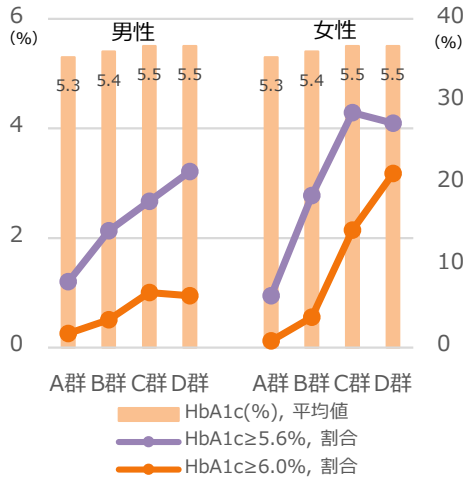

図2. 各群のHbA1cの平均値と有所見割合

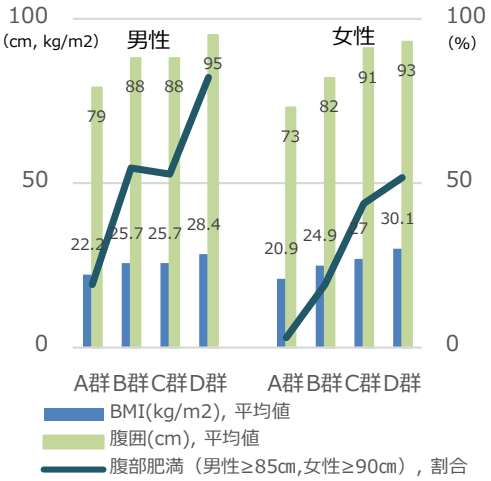

図2. 各群の腹囲の平均値と有所見割合

表. 対象者特性

	男性				女性			
	A群	B群	C群	D群	A群	B群	C群	D群
人数（人）	1,295	282	71	282	478	39	22	39
20歳時の腹囲 (㎝,平均±標準偏差)	63±12	71±13	64±12	69±14	52±9	57±11	57±15	60±13
30歳時の腹囲 (㎝,平均±標準偏差)	65±11	76±11	77±13	84±16	52±8	63±11	68±14	76±15
10年間の体重増加量 (kg,平均±標準偏差)	1.5±5.2	5.1±4.7	13±2.7	16±6.0	0.6±4.2	5.1±4.6	12±2.0	16±5.1

【結論】

実際の体重増加量が10kg未満でも10kg以上でも、問診で10kg以上増えていると答えた群は増えていないと答えた群と比較して、10年間の体重増加量の平均値が大きく、30歳の時の心血管疾患リスク因子の有所見割合が高くなる傾向を認めた。
実際の体重増加量の情報がない時は、当問診がハイリスク者同定に有用である可能性が示唆された。

日本公衆衛生学会COI開示
演題発表に関連し発表者らに開示すべきCOI関係にある企業などはありません。